

2017年8月21日 岐阜女子大学／デジタルアーカイブ学会第2回定例研究会

海外のアーカイブ デジタルアーカイブ ビジネスアーカイブ

松崎裕子

公益財団法人渋沢栄一記念財団情報資源センター
ビジネス・アーカイブズ・プロジェクト担当アーキビスト
(日本アーカイブズ学会登録アーキビスト)

謝辞 Acknowledgments (敬称略、順不同)

たばこと塩の博物館、森永製菓史料室、野秋誠治（森永エンゼル財団）
帝国データバンク史料館、高津隆（帝国データバンク史料館）
トヨタ自動車社会貢献推進部アーカイブズグループ
森本祥子（東京大学文書館）、清水ふさ子（学習院大学大学院博士課程）
齋藤柳子（アーカイブズ・レコードマネジメント・コンサルタント）
河上増雄（元一般財団法人日本経営史研究所事務局長）
大場利康（国立国会図書館）
企業史料協議会（BAA）、産業文化博物館コンソーシアム（COMIC）
Sophie Clapp, Company Archivist at Boots UK
David Hay, Head of Heritage & Archives, BT Group
Jamie Martin, IBM Corporate Archivist
Tracey Panek, Historian at Levi Strauss & Co.
Ted Ryan, Director, Heritage Communications, The Coca-Cola Company
Tina Staples, Global Head of Archives, HSBC Holdings Plc HGHQ



目次

1. 自己紹介
2. 渋沢栄一記念財団について
3. 国際アーカイブズ評議会（ICA）について
4. デジタルアーカイブについて
5. 企業アーカイブズ＝組織アーカイブズについて
6. 日本の企業が困っていることについて
7. コンテキストについて（その他専門性についても）
8. 日本の企業アーカイブズの事例
9. 世界の企業アーカイブズの事例



自己紹介

- 2004年～ [公益財団法人渋沢栄一記念財団](#)
[情報資源センター 企業史料プロジェクト](#) 担当
- 2008年～ [国際アーカイブズ評議会 \(ICA\)](#)
[企業アーカイブズ部会 \(SBA\)](#) 運営委員
- 2008年 [日本アーカイブズ学会](#) 委員
(～2010年)
- 2012年～ [企業史料協議会](#) 理事
- 2017年～ [ISO SC46 TC11](#) 国内委員



渋沢栄一記念財団のミッション

- 渋沢栄一の顕彰

- 関連資料の収集・
保存・提供

- 経済道義の高揚

- = 企業家精神の奨励・企業文化発展への貢献

- 企業史料の保存と活用への
理解増進 . . . → **ICASBA参加**





地域支部



ICA・・・1948年設立、アーカイブズとアーキビストに関わる国際的非営利組織



専門部会

アーカイブズ教育訓練SAE

公証記録SAN

建築記録SAR

企業アーカイブズSBA

国際機関アーキビストSIO

宗教団体アーカイブズSAFT

文学芸術アーカイブズSLA

自治体アーカイブズSLMT

専門職団体SPA

スポーツアーカイブズSPO

議会政党アーカイブズSPP

大学研究機関アーカイブズSUV

海外のアーカイブズ、企業アーカイブズ、日本のデジタルアーカイブ 年表 (2017年8月21日報告用) 作成: 松崎裕子

西暦	海外のアーカイブズ/ICA関係	海外企業アーカイブズ/SBA (SBL) 関係	日本の企業アーカイブズ/BAA/決沢財団 関係	日本のDA関係
1838	英国公文書保存法 (Public Record Office Act)			
1869	英国 勅許状 (royal warrant) により王宮歴史資料委員会 (Royal Commission on Historical Manuscripts - Historical Manuscripts Commission: HMC) 創設			
1899			森永西洋菓子製造所 (後の森永製菓) 創設	
1900			帝國興産社 (後の帝國データバンク) 創設	
1903			三井物産証券事業のため日本機械専門学校(三井本館)に三井物産館創設	
1905		グループ社アーカイブズ設立 (ドイツ)		
1906		ケルン市の経済アーカイブズ設立 (ドイツ)		
1907		ゲーメンス社アーカイブズ (ドイツ)		
1920年代		スイス、オランダ、フランスで企業アーカイブズ誕生していく		
1927		ハーバード大学でビジネス・アーカイブズ・コレクション開始。(資料では政府、各企業レベルのイニシアティブ、米国は大学に依存する。)		
1934	英国 F・ルースベルト大蔵相が国立公文書館法 (National Archives Act) に署名	ロンドンでビジネス・アーカイブズ・カンファレンス (BAC) 始発		
1936	米国アーカイビスト協会 (SAA) 結成			
1937			トヨタ自動車工業 (後のトヨタ自動車) 設立	
1942		デンマーク Aarhus に最初の企業アーカイブズ (両国がスウェーデンのピアリ協会をリードする)		
1945	英国 国立史料総局 (National Register of Archives) 創設開始			
1948	パリでICA設立 (欧州)			
1950	第1回大会開催 この年から大会でビジネスアーカイブズに特に関連される			
1957		ドイツ・ビジネスアーカイビスト協会結成		
活動期を通じて	自治体制の移行に際してアーカイブズへのアクセスの確保を定める。Guide to the Sources of the History of Nations誌編 (209巻、1959-64)			
1950-60年代	ICA大会でビジネスアーカイブズに関する議論とこれに関する協力の必要性が繰り返される			
1960	第4回ストックホルム大会 (Robert Marquand (Paris) アーカイブズと現代経済・社会研究に寄って刊行)			
1964			経産省学会創設	
1965			財団法人三井文庫設立	
1968	第5回マドリッド大会: ビジネスアーカイブズの国際に際し DCAと各国のアーカイブズ管理機関間の協力を強化するためのICAH理事委員会創設が決議		財団法人日本経営史研究所設立	
1969		米国アーカイビスト協会 (SAA)、ビジネス・アーカイブズ委員会 (BAC) が企業団体アーカイブズのディレクトリ第1号発行		

当日配布
資料
別ファイル
参照

1970年代まで	ほとんどの機関が独立、初期のアーカイブは狭く主に		
1970代	情報学上層におけるビジネスアーカイブズという概念が生まれる		
1971			(国立公文書館設置)
1972			大日本印刷株式会社CDC事業部研究センター創「6Aりん」発の開始
1974	ロンドンでの会議BACと併発。ビジネスアーカイブズに対する認知が深まることとなる。 Charles Thompson (London) を会長に、Othfried Doehrer (Dortmund) を事務局長とした暫定委員会がBACによって形成される。暫定委員会のミッションは1976年にワシントンDCで決定されている第8回大会に向けてのレポートを準備すること。		
1975		企業アーキビスト協会 (SAA) ビジネス・アーカイブス委員会 (BAC) が企業団体アーカイブズのチャレクトリ第2版発行	
1976	第8回ワシントン大会。暫定委員会がレポート提出。第8回大会が後にアンケート追加。80が催から出席。27が企業がビジネスアーカイブズに同意。1977年刊：10の国に経典機関アーキビストの協会あり。8の国にビジネスアーカイブズセンターとして活動開始が開始。ビジネスアーカイブズ (BA) 委員会設立	Othfried Doehrer を会長に、Hilda Coppens-Desmet (Belgium) を事務局長としてビジネスアーカイブス協会設立。メンバーはほか、Finn H. Lauritzen (Denmark), Robert W. Lovett (USA), Claude Menthe (Switzerland), James W.H. Moore (Zambia), Kwame Neneah (Yugoslavia), Walter Romerow (USP), and Maurice Hamon (France)等。10人の計画×5/1年、18人の通常メンバー、西暦1年、事務所、南米、北米、アフリカ1、アジア2、第142	専門図書館協会国際地区協議会の母体が「世界グループ」結成 (6頁)
1977		BA委員会ドルトムント (ドイツ) でシンポジウム	
1978		BA委員会Bandワシントン ビジネスアーカイブズの手引書Business Archives: Principles and Practice (1978) 発行	
1978~1988		SEL 毎年3.4回発行	
1979		BA委員会Amherstでシンポジウム	
1980		BA委員会ロンドンでシンポジウム 第9回SAAビジネス・アーカイブス委員会 (BAC) が企業団体アーカイブズ・チャレクトリ第3版発行	
1981		BA委員会ウィーン会議「銀行史」	企業史料協議会 (SAA) 設立 設立発起人5名等15人
1982		BA委員会バノ会議「記録管理」	
1983		BA委員会ヘルシンキ会議「文書、電子情報の保存」 SEL 最終の165冊 Business Archives Studies on International Practices	BA企業史料管理研究会「海外におけるビジネス・アーキビストの動向について」講演 (共立学大史学部、1月) BA企業史料管理研究会・専門図書館協会と共催でコネクト公文書管理工パンス市工議委員会 (7月) BA企業史料管理研究会・アーカイブス協議 (8/13-24) BA企業史料管理研究会「ヨーロッパの企業史的に企業史料」 (9月)
1984		BA委員会ボン会議「研究とアーカイブスの関係」 Hilda Coppens-Desmet (Belgium) の議長。Arne Christna (Uppsala) (Sweden) が事務局長に、Arne von Camp (USA), Leslie Richmond (Scotland), Pirkko Paavola (Finland), Brita Rikheim (Norway), and Teresa Torralba (Spain)らがメンバーとなり計14人出席。 イベント、中場からの参加もあり、情報学上層における経済アーカイブス研究会の重要性が認識された点。	
1985		BA委員会フィレンツェ会議「経歴資料とドキュメンテーション戦略」 第10回BACの企業アーカイブズのチャレクトリ第1版発行	
1986	ICAR発行委員会。委員会から報告制度への移行を指揮	BA委員会ストックホルム会議「右史と出産物の確立」	BA企業史料管理研究会「西独BFBS社アーカイブズについて」工団事業大史学 (11月) BA企業史料管理研究会バークー・ロンドン大教授「イギリスにおける企業史料と書史」 (4月)

1987		BA 委員会マドリード会議 「保存に関する各種タイプと整理化される別の複製物等類」 英国BACの企業アーカイブス・ディレクトリ第2版発行	BAA企業史料管理研究会 「シーメンス史料館における文書管理について」 〈2頁72-73〉 BAA企業史料管理研究会 「アメリカの公共図書館における企業史料の保存と利用について」(7頁)	
1988	7/17大会開催。BA委員会初の総会と最終議決。SBLA (8-23)	BA委員会バリ会議「経済アーカイブズにおけるニューメディアの活用」 最終時の10人に加え、27人の連絡メンバー、アフリカ(チュニジア、ザイール、ジンバブエ)、アジア(タイ、中国、日本)を含む、 プロジェクトでSBLA設立。47名参加。 「物理アーカイブス・複製性とフレイオリティ」開催。		
1988		ICAのYearbookシリーズとしてSBLのAnna Christina Ulfhemの執筆の The Management of Business Records 発行		
1989			BAA米国企業博物館・アーカイブス発刊 (9/4-17)	情報管理学会「人文科学とコンピュータ」研究会 設立
1990		BA委員会事務局長であったスウェーデンのAnna Christina Ulfhem氏委員長に選出。 料題BAAビジネス・アーカイブス協会(BAC)の企業記録アーカイブス・ディレクトリ第3版発行	BAA「アメリカにおける企業博物館活動の現状調査」報告書(11頁)	
1991			中国図書出版業事務局女史からBAAにコンタクト(1頁) BAA中国館の構築費が決定(6/9-19)	
1992		Anna Christina Ulfhem氏委員会委員。任4年。 スタバインガー(メルウェー)でシンポジウム「石炭産業と記録管理の現状」開催 英国BACの企業アーカイブス・ディレクトリ第3版発行	BAA第1次中国館築設発刊(4/18-5/2) 日中国語それぞれ企業史料管理をめぐる座談会(北京) BAA中国館築設代表団受け入れ(11月)	
1993	北京でEASTICA(東アジア地域支部)設立		BAA中国館築設委員会1次代表団受け入れ(11/8-21) 「中国文書管理OALの基本意識」	
1994		シンポジウム「同時期別のアーカイブが提供する価値」	BAA第2次中国館築設発刊(4/17-27) 16中国語の企業アーカイブス、会社史編纂、会社史目録作成等をめぐる座談会(北京) 2回本の企業史料管理状況(上海) BAA中国館築設代表団受け入れ(10月)	
1995	英語 HAKがAnthon (Archives on-line) リリース	ロシアで初めて公開化された企業の指導者向けアーカイブが修復復元開始	BAA中国館築設委員会2次代表団受け入れ(11/6-17) 「日中それぞれの企業も文書管理と企業史料管理活動」	
1996		Jero Koozbanjan(オランダ) 協会員に選出。 事務局長Lasker Achmann(オランダ)が「国際でのビジネスアーカイブ概論」 Overview of Business Archives in Western Europe 発行。 ICA北京大会(6-7)で「ビジネスアーカイブスの発展と今後の動向」セッション開催	BAA ICA北京大会にオブザーバー参加 BAA第3次中国館築設発刊(9/1-14) 1)史料の保護、展示(西京) 2)中国企業史料管理の事例(上海) BAA中国館築設代表団受け入れ(8月、11頁)	デジタルアーカイブ推進協議会(JDAA) 結成
1997		BA委員会 参加メンバー139名 SAAとビジネス・アーカイブス協会、企業記録アーカイブス・ディレクトリのウェブ 版をリリース 英国BACの企業アーカイブス・ディレクトリ第4版発行	BAA文書管理研究部誌「研究者から見た英国の企業史料管理活動」 (3頁) BAA EASTICA創刊(10頁) BAA中国館築設委員会3次代表団受け入れ(12/1-12) 「企業経営活動の調査への活用、日本企業の記録保存体制、専門機関別のデータ ベース検索システム」	
1998		BA委員会 英誌によるニュースレター発行、ウェブサイトとML立ち上げる	BAA「心A疑文パーバーをめぐり研究」(1頁-6頁-4) BAA第4次中国館築設発刊(4/19-5/2) 1)日中企業史料管理の事例(北京) 2)企業博物館発展について(北京) BAA EASTICA入会式(中国語) 開催(9月) BAA 日仏経営史学協議会セッション参加(12月)	「国立国会図書館電子記録情報部」発刊
1999			資本制度百年100周年 BAA EASTICA報告(東京)参加(11月)	「アジア管理情報」インターネット提供開始試行 (11/30)

2000	Harek Fock (ノルウェー) 総合員に選出 (2002まで) ICAセビリア大会でS&L4セッション 「ビジネスアーカイブスへのアクセス」(収蔵と評価選別) 「ビジネスアーカイブス総論」(NSA)	情報データバンク創設100周年 S&AIP国際会議第4次代表団参加(3/29-4/7) 「資料、電子化後の保存性」 S&AIPの国際代表団参加(11月) S&AIP総論 「日本企業アーカイブスと調査研究」(米ニューヨーク大学シュニエファー・ワイゼンフェルト院教授) 開催(7月) S&A ICAセビリア大会に参加	岐阜女子大学文化情報研究センター開設(4月) 阪神e-Japan構築発表
2001	ICAのレイキヤビコトTRACでLelo Richmond(グラスゴー大学、SEL 事務局長)が 「企業資料保存における役割」を特別セッションで発表。	S&A第5回中国国際会議(9/9-21) 「史料整理の電子化、複製者伝史料の保存・利用、企業事業史料の集中整理」(張利) 立地研究実業遺産の研究・保存、企業集約の史料管理(横竹)	文化財情報基本法施行 岐阜女子大学文学部史学情報メディア学学科設置
2002		Hans Eyvind Næss (ノルウェー) 総合員に選出 (2010まで)	札幌女子「世論」研究(ダイヤモンド社、8月) S&A中国国際代表団参加(16日)
2003			ICP財源基本法施行 個人情報保護法成立
2004	ICAウィーン大会でTS&Lが「ビジネスアーカイブス国際比較」を発表	(日本アーカイブス学会設立、4月) 公益財団法人池田勇一郎記念国際企業史研究情報センター企業史料プロジェクト開始(12月)	ICP著作権法改正 文化遺産オンライン公開開始
2005	ICAアブダビOTRACにて「グローバル化時代のアーカイブス」セッションをSEL共催	S&A中国国際学会第6次代表団参加(11/14~23)	デジタルアーカイブ推進協議会(LDAA) 創設
2006	S&Aがビジネスアーカイブス調査		NPO法人日本デジタル・アーキビスト協会設立 情報死亡
2007	日本アーカイブ・セミア実行委員会、全国アーキビスト協会 主催・企画 「日本アーカイブ・セミア」(東京・東京大学、5/9-11)		
	ICAセミア(「電子時代における業務と解決」(中国印刷、12/4-5)	S&A事務所移転(5月)	
2008	クアラルンプール大会(7/21-27) テーマ:「アーカイブス、ガバナンス、権利・事業の社会を築く」	公開ワークショップ 「企業ガバナンス(保管)の役割と実践」/リレーション(保管)の役割、透明性、そして企業社会への応答性」 ノルウェー・スタリ/ンガー、6/16-17)	公益財団法人池田勇一郎記念国際企業史研究情報センターがメールマガジン「ビジネス・アーカイブス通信」を発行(2/15) 産業文化情報館コンソーシアム(ICOINC CONSORTIUM OF MUSEUM FOR INDUSTRY AND CULTURE)第1回開催(5/20)
2009		セミア「歴史の中のビジネスアーカイブス」(ヘルシンキ、6/12) セミア「ビジネスアーカイブス:業務の保存と継承」(インド・ブナー、12/7-8)	(公文書等の管理に関する法律施行、7/1)
2010		シンポジウム「会社の記憶、経営に果たす役割」(仏プロウ、5/26-27) Deber Bonyue 発表者に選出(2012まで) 2014年のビジネスアーカイブス国際会議、会場と2008年のS&A調査を基にビジネスアーカイブスに関する比較研究をウェブで公開。	
			(公文書等の管理に関する法律施行、4/1)
2011		池田勇一郎記念館、ICA、SEL、企業史料館調査所 主催シンポジウム「ビジネス・アーカイブスの価値」(東京・情報文化会館、5/11)	
			S&A設立30周年記念事業「ビジネス・アーカイブスフェア」 テーマ「ビジネスアーカイブスの未来と継承」 総論講演・上川潤子特別講演(「近代公文書管理利用大会」) 「残す、伝える、保存する アーカイブス社会のために」 シンポジウムテーマ「知的財産保護としてのアーカイブスを考える」 (11/11)開催

2012	シンポジウム「絶えず必要を感る—21世紀のビジネス・アーカイブスト」 (オンライン・コペンハーゲン, 4/18-17) SBLメンバー116名	トヨタ自動車創業75周年 第1回 ビジネスアーカイブスの日 テーマ「デジタルはビジネスアーカイブスの未来を拓くか?」 特別講演・武井雅夫(当館の元第一総務部長兼「資料第一総務科」デジタル化の推進)。 特別講演・@tla/すみみ(和光大学一応務学国際学術情報センター長「資料第一総務科」のデジタル化)。 特別講演・吉田俊彦(東京大学大学院「デジタル化とビジネスアーカイブスへの推進の担い手」)。 シンポジウムテーマ「デジタル時代のビジネスアーカイブス」 (11/7)		
2013	SBLシンポジウム「危機、復興、そして未来」(スイス・バーゼル, 4/)	第2回ビジネスアーカイブスの日 テーマ「脅かす「野」の歴史と企業アーカイブス」 特別講演・松原文雄(自任社団法人国立公文書館館長「企業が語り継ぐもの」)。 特別講演・佐藤弘(熊本大学大学院)「社会に開かれたアーカイブスとは?」松原1名、しかも兼任、それでも超絶なアーカイブス。 シンポジウムテーマ「脅かす野の歴史と企業アーカイブス」 (11/5)		
2014	SBLシンポジウム「工場からフェイスブックへ」ビジネス・アーカイブスに変わる新たな世界」(イギリス・ロンドン, 4/14-15)	第3回ビジネスアーカイブスの日 テーマ「社史からアーカイブスへ」 特別講演・小嶋洋(株式会社読書の情報科学)「社会史から目」田嶋(読書の社会)の経験から」 特別講演・大島久幸(元読書情報センター)「社史からアーカイブスへ」田嶋(読書の社会)の経験から」 シンポジウムテーマ「社史からアーカイブスへの経験へ」 (11/5)		
2015	SBAシンポジウム「面白いビジネス・アーカイブスを作るには：誰が対し、誰が面白い結果を得る」(イタリア・ミラノ, 6/15-16)	第4回ビジネスアーカイブスの日 テーマ「ビジネスアーカイブスと情報科学」 特別講演・高野道雄(アジア歴史資料センター)「情報と史料の対峙」 特別講演・高野道雄(アジア歴史資料センター)「情報と史料の対峙」 特別講演・高野道雄(アジア歴史資料センター)「情報と史料の対峙」 シンポジウムテーマ「デジタル時代に於けるビジネスアーカイブス」 (11/5)	特別講演・東京大学大学院「情報科学と歴史学」 特別講演・東京大学大学院「情報科学と歴史学」 シンポジウムテーマ「デジタル時代に於けるビジネスアーカイブス」 (11/5)	
2016	SBAシンポジウム「サステナビリティ」(韓国・アトランタ, 4/4-5) ICAソウル大会(9日) テーマ「アーカイブス、情報、復興」	第5回ビジネスアーカイブスの日 テーマ「資料をつくる、史料を語る」 特別講演・山田大(2016年) 「日本アーカイブス体験」 特別講演・山田大(2016年) 「日本アーカイブス体験」 シンポジウムテーマ「人が語る、資料をつくる—記憶を伝えるために—」 (11/5)		
2017	SBAシンポジウム「ビジネス・アーカイブスの未来の展望」(スウェーデン・ストックホルム, 4/5-6) SBAシンポジウム「記憶、アイデンティティ、企業アーカイブス」(ブラッド・アイデンティティを構築し、未来を導くビジネス・アーカイブスの役割) (インド・ムンバイ, 12/5-6)	企業文化博物館コンソーシアム (ICOM) 第20回開業 (7/13) 第6回ビジネスアーカイブスの日 (11/7)		デジタルアーカイブ学会創立(4日)

デジタルアーカイブとは？



デジタルアーカイブとは？ レビュー

01

笠羽晴夫

『デジタルアーカイブ』 2010、 『デジタルアーカイブの構築と運用』 2004

02

影山幸一

「デジタルアーカイブの歴史」 2010

03

岐阜女子大学

文化情報研究センター ウェブページ

04

古賀崇「日本におけるデジタルアーカイブのゆくえを探る」 2017

「『デジタル・アーカイブ』の多様化をめぐる動向」 2017

05

永崎研宣

「デジタルアーカイブの弁証法」 2005

06

日本アーカイブズ学会編

「広がりゆく『デジタルアーカイブ』とアーカイブズ」 2011

デジタルアーカイブとは？ レビュー…書誌詳細

笠羽晴夫． デジタルアーカイブ：基点・手法・課題．水曜社，2010，200p.

笠羽晴夫． デジタルアーカイブの構築と運用：ミュージアムから地域振興へ．水曜社，2004，191p.,
(文化とまちづくり叢書).

影山幸一． “デジタルアーカイブの歴史”．Infocom．2010年1月25日．

<http://www.infocom.co.jp/das/column/column1/column1.html>, (参照 2017-8-11).

岐阜女子大学． “文化情報研究センター”．岐阜女子大学．<http://www.gijodai.jp/circ/>, (参照 2017-8-11).

古賀 崇． 総論：日本におけるデジタルアーカイブのゆくえを探る：国際的動向を踏まえた、「より深い利用」に向けての展望．情報の科学と技術．2017-02-01, 67 (2), p.48-53.

<http://opac.tenri-u.ac.jp/opac/repository/metadata/4112/>, (参照 2017-8-11).

古賀 崇． 「デジタル・アーカイブ」の多様化をめぐる動向：日本と海外の概念を比較して（研究展望）．アート・ドキュメンテーション研究．2017-03, 24, p.70-84.

<http://opac.tenri-u.ac.jp/opac/repository/metadata/4389/>, (参照 2017-8-11).

永崎 研宣． デジタルアーカイブの弁証法．情報処理学会研究報告人文科学とコンピュータ（CH）．2005-10-28, 2005(105(2005-CH-068)). <http://id.nii.ac.jp/1001/00055044/>, (参照 2017-8-11).

日本アーカイブズ学会編． “広がりゆく「デジタルアーカイブ」とアーカイブズ（特集 日本アーカイブズ学会2011年度大会企画研究会報告）”．アーカイブズ学研究．日本アーカイブズ学会編．2011-11, p.1-60.



【その他レビュー用資料】

国立国会図書館

「文化・学術機関におけるデジタルアーカイブ等の運営に関する調査研究」

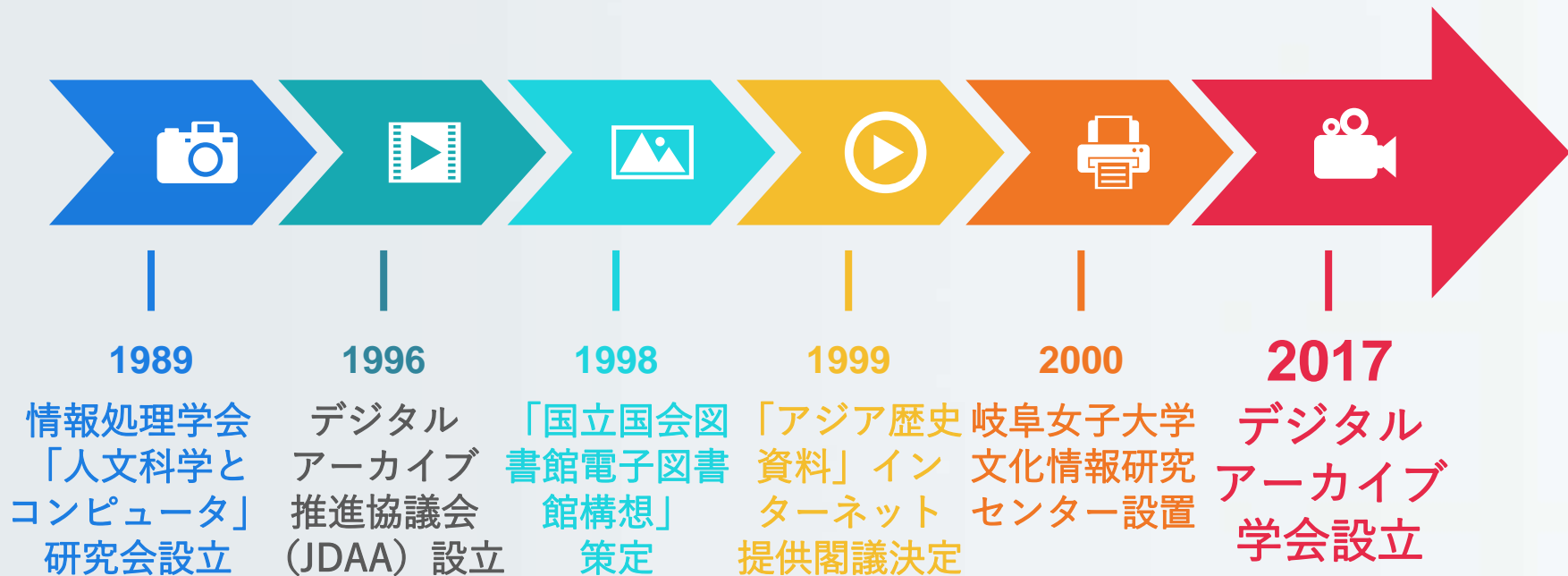
http://current.ndl.go.jp/FY2009_research

(2009年)

- 報告書
- 質問紙調査結果
- 個別機関データ
- 国内のデジタルアーカイブ等提供機関一覧
- 自由回答結果
- マスターデータ
- 質問紙



「デジタルアーカイブ」関連事項 タイムライン





1990年代以降、さまざまな流れが存在

学術的定義むずかしい

概念を定義するよりは、言葉自体が指し示す内容を広げることに意味を見出す議論もある (左の例)

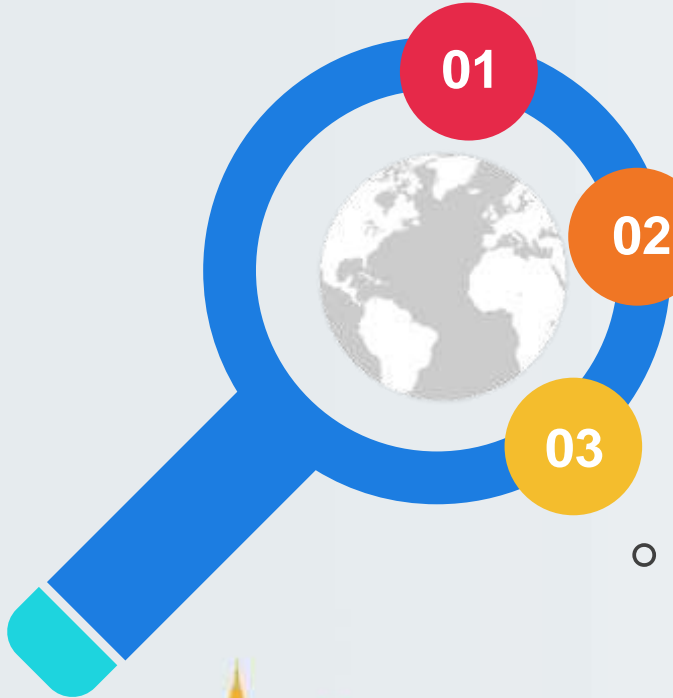
現在進行形の不定形の概念

→後世の歴史家に委ねたい
年表を埋めてほしい

異なるグループの問題意識・文脈を理解する必要があると考える

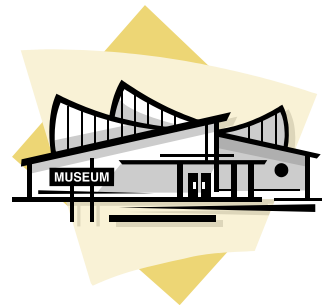
<https://twitter.com/tsysoba/status/893810725281386496>

本日のお話の **範囲** (*scope*)



- 企業のアーカイブズ (BA) ・
海外のアーカイブズ (IA) を中心に
- ベンチマーキングの対象
(ベストプラクティス) になる公的
機関や団体のアーカイブズ紹介
- 企業、海外の (伝統的な) アーカイブズ
の デジタルな利活用 を紹介

2種類のアーカイブズ（部署・機関）



組織（内）アーカイブズ

（企業・会社・グループ内にある）

収集アーカイブズ

（文書館、博物館、図書館などMLA機関）

記録資料（デジタルデータ含む）の 誕生からアーカイブ化まで

作成後現用記録（データ）として利用・保存

半現用記録（データ）として利用・保存

非現用記録（データ）に

評価・選別

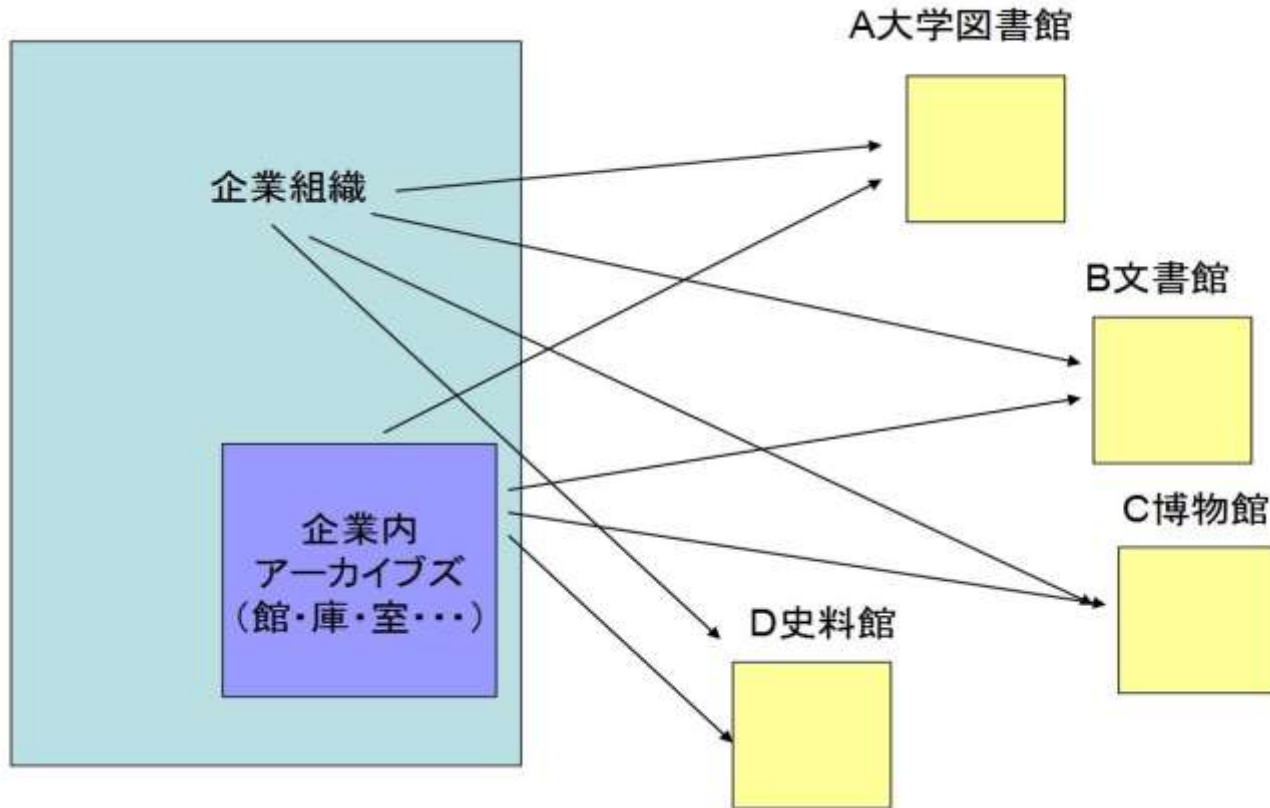
長期保存価値を持つものはアーカイブ化

伝統的に「記録管理」
（レコード・マネジメント）
の対象とされてきた

アーカイブズ（長期保存記録資料・デジタルデータ）管理モデル



寄託、寄贈、業績悪化や倒産により 組織アーカイブズから収集アーカイブズに



目的、利用者・公開ポリシーの比較

	組織アーカイブズ	収集アーカイブズ
優先される目的	組織運営・ 業務支援 組織ミッション への貢献	さまざまな目的 (研究、証拠、 趣味ほか) に関する資料 として提供
優先される利用者 公開ポリシー	組織内部	一般公開

日本企業が
アーカイブズに関して
困っていること



専門性を社内で
継続的に調達確保
できない

日本の組織の特性



記録がない

記録が集まらない

記録管理の仕組みがない

日本の組織の特性





印刷会社
など社史
制作サポ
ート企業



一般財団
法人経営史
研究所
1968



企業史料
協議会
1981



ディスプレ
ー・修復等
をサポート
する企業



産業文化博
物館コンソ
ーシアム
(COMIC)
2008

専門性を企業間の横の連携や外部のエキスパートによって補う



アーカイブズ活動 なぜ連携が可能か

- ・ 個別企業を超えた横のつながり（研修機会など）が可能なのは、企業社会の共通利益につながる
- ・ 史資料、レコードキーピング（記録の作成から長期保存までのマネジメント）に社会貢献的な意味、公益がある



専門性 とは何か



コンテキスト
(文脈、脈絡) にかかわる

整理・目録作成

修復等の管理

アーカイブズ学

図書館情報学／博物館学

経営学／行政学など

ストーリー
(ものがたり) にかかわる

歴史遺産理解

と情報発信

歴史学

経営学

博物館学など

ルール
(法規、規範) にかかわる

ポリシー作成

著作権理解

法律学

倫理学

など



専門性：コンテクト

企業資料の移管・収集、整理、目録作成、保存等の知識とスキル



コンテクストの意味

『広辞苑第六版』によると

コンテクスト (context)

文章の前後の脈絡。文脈。コンテキスト。

脈絡 ①血の流れる脈管。②物事のつながり。みちすじ。

文脈 文中での語の続きぐあい。文章の中での文と文との続きぐあい。比喩的に、筋道・背景などの意にも使う。





@ericinva

フォローする



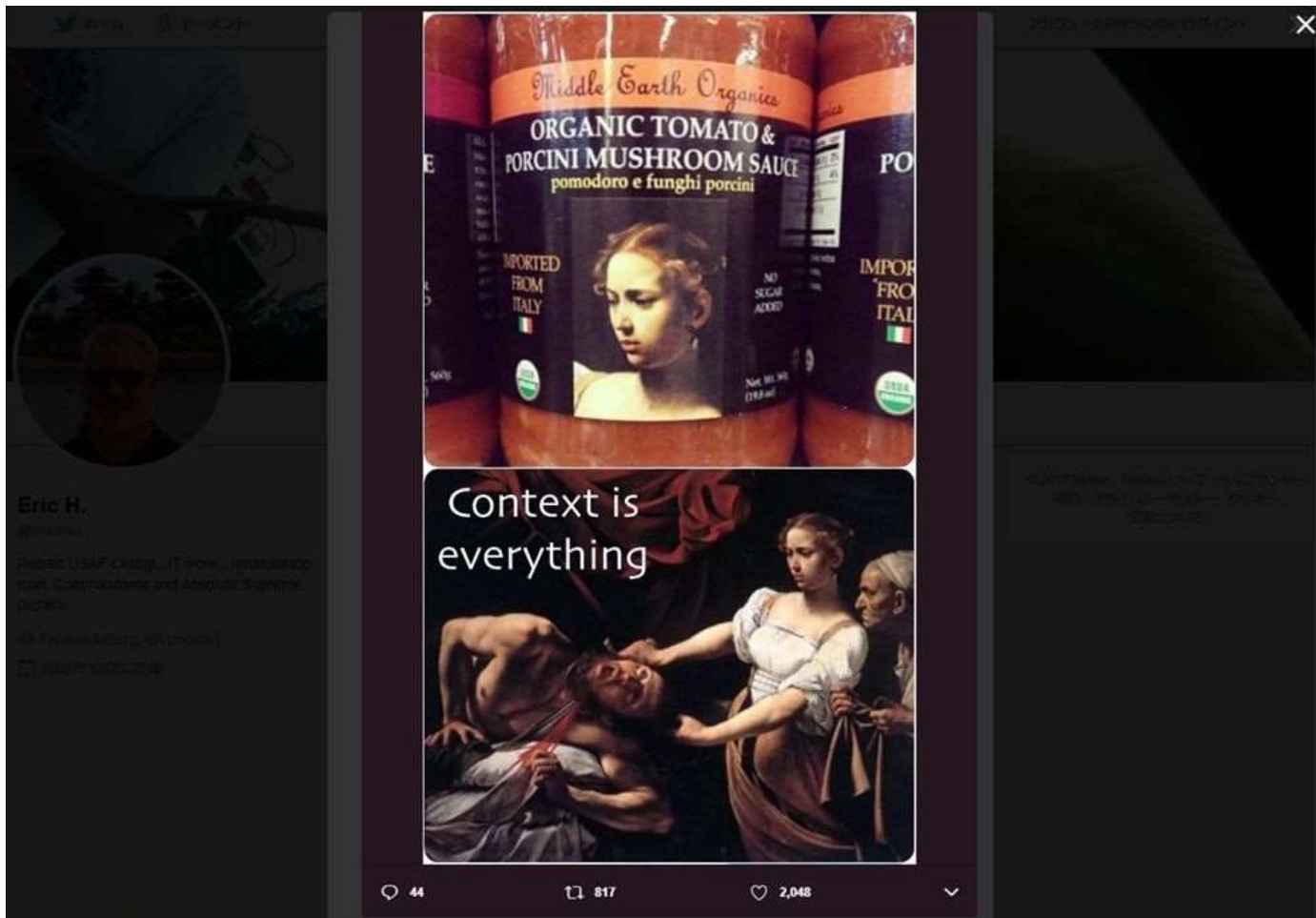
Don't underestimate the importance of context. [1 user](#)



7:24 - 2017年8月4日

<https://twitter.com/ericinva/status/893477699435606017>

トマトソース瓶の
パッケージ・イメージ



<https://twitter.com/ericinva/status/893477699435606017>

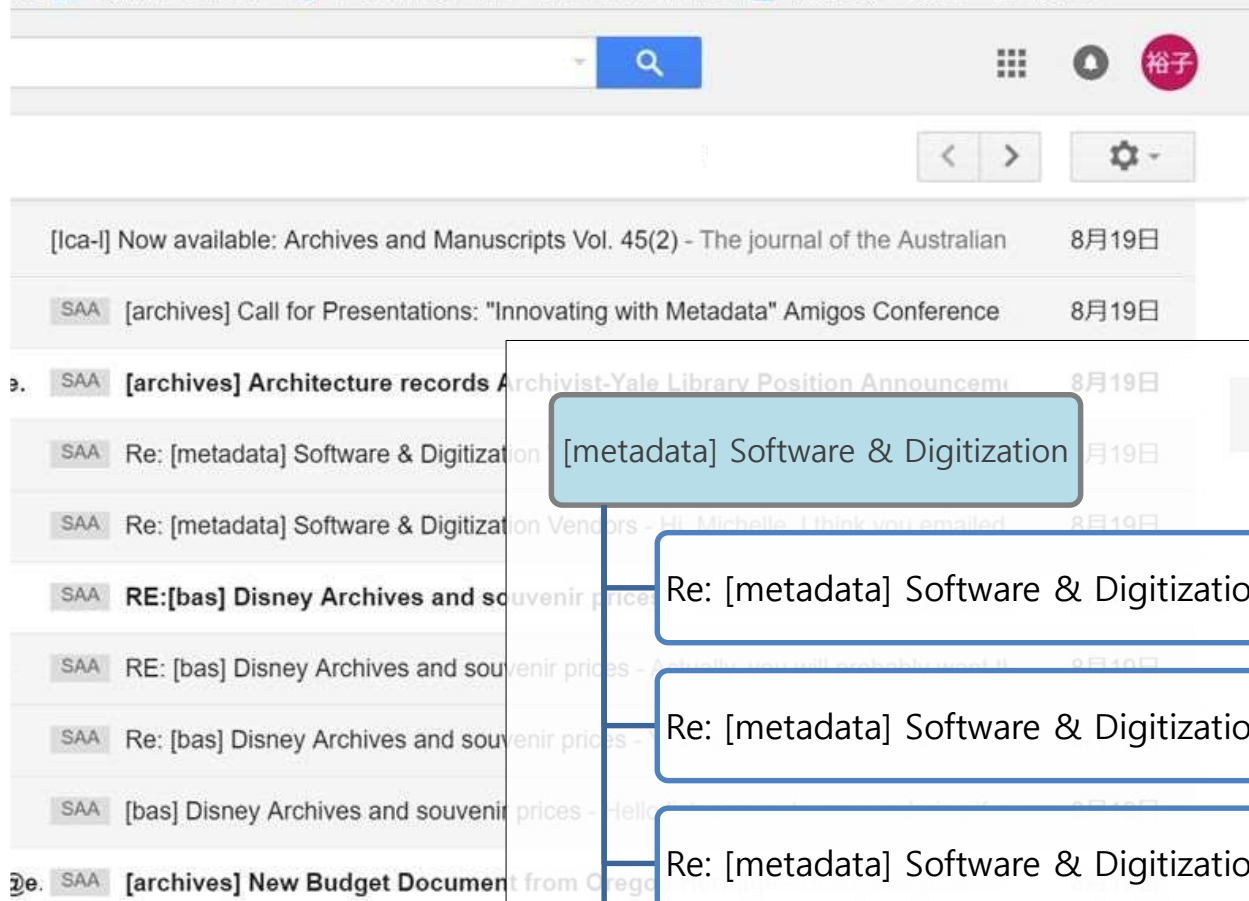
全体のピクチャは・・・



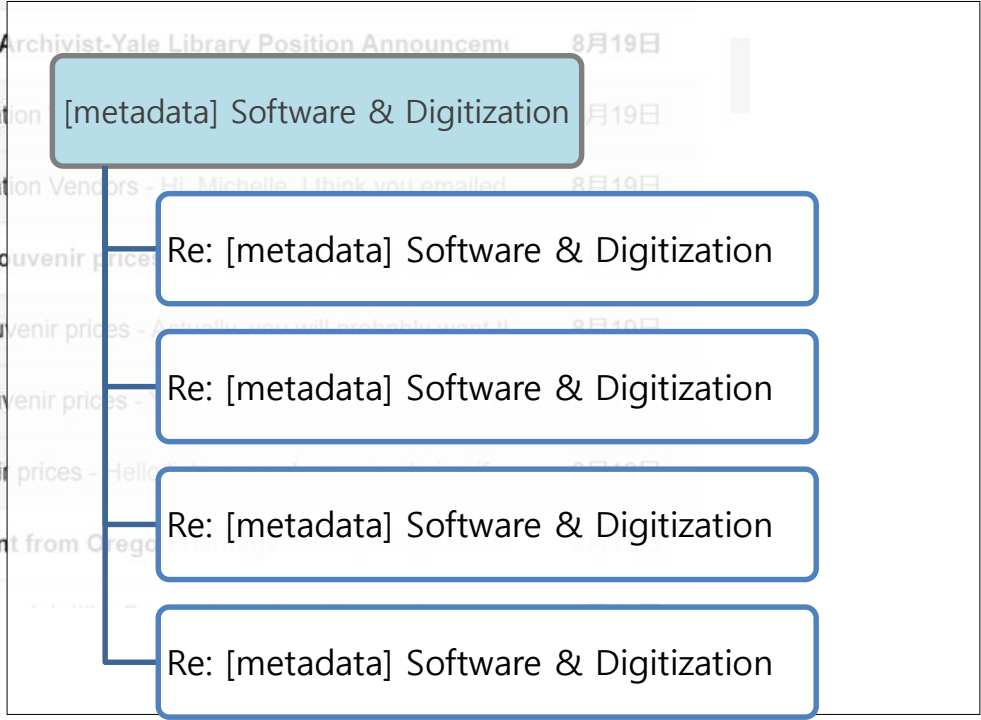
https://commons.wikimedia.org/wiki/File%3AJudith_Beheading_Holofernes_by_Caravaggio.jpg

Caravaggio [Public domain], via Wikimedia Commons

コンテキスト



スレッドの中の1アイテム
のコンテキストを（例えば100年後にも）理解可能
とするにはスレッド全体をアーカイブする必要あり



コンテキストに関わる別の問題

花王の事例

- 取締役会会議等重要会議を含む社内のほとんどすべての会議ではパワーポイントのスライド数枚（デジタル時代の社内の会議資料は紙の時代と異なる例）
- 箇条書き、あるいは概念図のみ
- 情報の意味は会議参加者以外には理解不能
- アーカイブズ担当者がパワーポイントファイルの保存と併せて、会議参加者に対してインタビューを行いコンテキストを補う

(出典) 松崎裕子. 特集, アーカイブズの現在: 資産としてのビジネスアーカイブズ, 付加価値を生み出す活用の必要性と課題. 情報の科学と技術. 2012, 62(10), p.422-427.

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jkg/62/10/62_KJ00008230596/article/-char/ja/

資料の移管・収集、整理、目録作成 のために

柚木俊弘

「史資料の資源化」
『企業アーカイブズ
の理論と実践』

(83-97頁)

丸善プラネット 2013年

野秋誠治

「史資料の管理」
『企業アーカイブズ
の理論と実践』

(99-114頁)

丸善プラネット 2013年



森本祥子

「資料活用のための目録作成のヒント：目録の標準化とは何か」（2015年）

[https://www.slideshare.net/BusinessArchives Association/ss-50534474](https://www.slideshare.net/BusinessArchivesAssociation/ss-50534474)

清水ふさ子

「アーカイブズ資料記述および目録編成の一例：資生堂企業資料館所蔵資料を例に」（2015年）

[https://www.slideshare.net/BusinessArchives Association/ss-50596064](https://www.slideshare.net/BusinessArchivesAssociation/ss-50596064)



日本企業の現場の経験から



移管・収集の対象①

全社的動きの記録

有価証券報告書

- ・株主総会議事録
- ・取締役会議事録
- ・営業報告書
- ・経営会議資料
- ・社内報
- ・社員名簿
- ・社内諸規定
- ・組織の変遷図 等

各部署の全体的動きの記録

生産・技術関係

- ・工場の沿革
- ・研究所の沿革
- ・技報等

営業・販売関係

- ・製品カタログ
- ・営業所会議議事録
- ・支店長会議議事録 等

移管・収集の対象②

テーマ別

モノ資料

(社外の史資料)

会社の重要な
出来事に関するもの

写真、図面
マイクロフィルム
電子記録媒体
映像、製品
設備・機械
ラベル、容器
記念品
広報ツール
販促物 等

- ・取引先資料
- ・関係書籍
- ・他機関所蔵資料
- ・業界団体関係等

柚木俊弘 (元ダイキン工業) 「史資料の資源化」

(『企業アーカイブズの理論と実践』、丸善プラネット、2013年) 87～88ページより作成

評価選別

「後世の人びとに会社の姿をより正確に伝え、理解してもらうためには、どのような情報を史資料として残したらよいか」

- 法的あるいは業界として保有が義務的なもの
- 証拠的価値の高い史資料
- 社業の発展や困難を物語るもの
- 地域的、社会的な要請があるもの
- 社史編纂のために重要な史実の記録

柚木俊弘（元ダイキン工業）「史資料の資源化」
（『[企業アーカイブズの理論と実践](#)』、丸善プラネット、2013年）89ページより

整理・目録がめざすもの

- 企業資料は業務の過程において作成されたもの
- 資料のコンテキスト（どういう業務の過程で作成されたのか）がわかる
- すばやく目的の資料を探せる

企業には正確な情報提供の責任あり
利用のための的確迅速な検索性が必要

整理 基本原則（三つの視点）

- ① 作成（または受信）した部署ごとに区分整理すること。
他の部署のものを混在させない。元の部署での分類・整理を尊重し保持する。
- ② 体系的に整理・収納し、検索可能な状態に。
- ③ 長期間の保存に耐えられるように、汚れや破損防止のための保存措置を講じる。

柚木俊弘（元ダイキン工業）「史資料の資源化」

（『企業アーカイブズの理論と実践』、丸善プラネット、2013年）90ページより作成

目録作成事例 (森永製菓)

ポスターの詳細目録の場合

作成年

作成者

デザイン内容を言葉で

「ミルク（コンデンス）あずき色の背景にコーヒーカップ」

「ミルク／上等舶来飛切以上・国産練乳代表之」

同一のポスターでも目録作成者によって違う例

野秋誠治（元森永製菓、現森永エンゼル財団）「史資料の管理」
（[『企業アーカイブズの理論と実践』](#)、丸善プラネット、2013年） 109ページより



国際標準を参照してみる



資料活用のための目録作成のヒント
～資生堂企業資料館での資料整理を事例として～

目録の標準化とは何か

東京大学文書館 森本祥子
morimoto.Sachiko@mail.u-tokyo.ac.jp

https://www.slideshare.net/Business_Archives_Association/ss-50534474
[CC BY-NC-ND](https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/2.0/deed.ja)

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/2.0/deed.ja>

1. 資料整理のキーワードたち

出所原則 *principle of provenance*

出所が同一の記録・資料を他の出所のそれらと混在させてはならない、
という基本原則のこと

(『文書館用語集』より、一部修正)

原秩序尊重の原則 *respect for original order*

資料相互の関連性や意味あるいは出所においてつくられた検索手段の有効性などを保つために、単一の出所を持つ記録資料の、出所によってつくられた秩序（整理番号を含む）は、保存しなければならないという原則

(『文書館用語集』より、一部修正)

1. 資料整理のキーワードたち

概要から詳細へ

資料群全体の記述が、その資料群のなかのいかなる構成部分の記述にも先行して提示される

(『記録史料記述に関する原則についての声明』より、一部修正)

コンテキスト情報

記録を生み出した組織・活動、記録が作成された経緯、記録と記録との関係などの情報。

資料活用のための目録作成のヒント
～資生堂企業資料館での資料整理を事例として～

アーカイブズ資料記述

および目録編成の一例

～資生堂企業資料館所蔵資料を例に～

学習院大学大学院アーカイブズ学専攻

博士後期課程 清水ふさ子

3.ISAD(G)によるファンド記述「資生堂」

3.1 資生堂文書資料の構造について

図1 資料階層構造イメージ

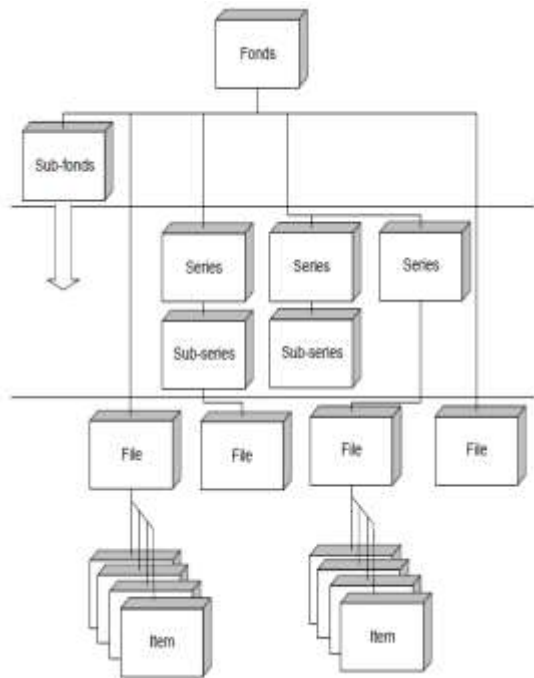
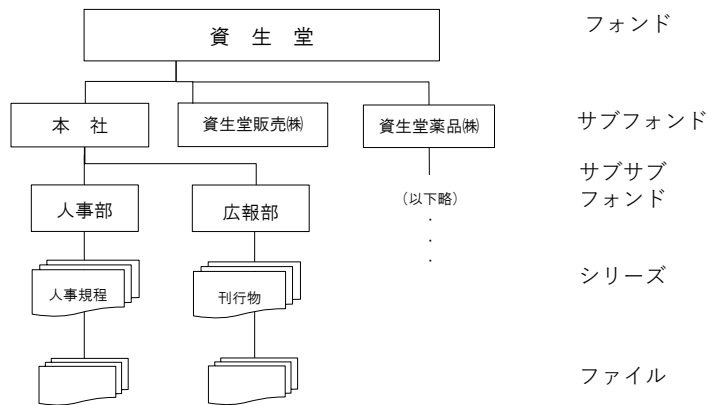


図2 資生堂をファンドとした出所別階層構造イメージ



https://www.slideshare.net/Business_Archives_Association/ss-50596064

CC BY-NC-ND

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/2.0/deed.ja>

ISAD(G)?



ISAD(G):

General International Standard Archival Description

アーカイブズ記述に関する 一般的国際標準

(1993-94年発表)

(訳語は http://www.archives.go.jp/publication/kita/pdf/kita46_p056.pdf による)



ファンド?

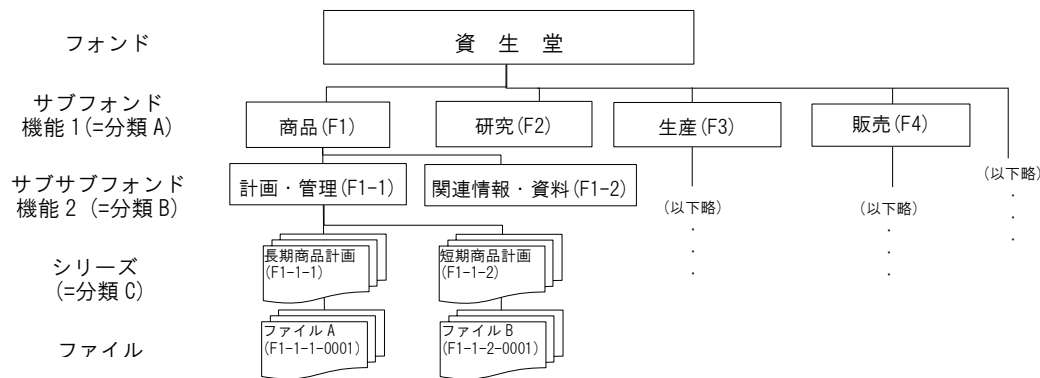


特定の個人、家、団体が、個人的もしくは組織的に活動するなかで有機的に作成され、または蓄積され、使用された記録の総体。
その記録の形態や媒体を問わない。

アーカイブズ・インフォメーション研究会『記録史料記述の国際標準』
(北海道大学図書刊行会、2001年) 14ページ



図3 資生堂をファンドとした機能別階層構造イメージ



→上記理解で文書資料分類を階層に分けたもの [資料2 文書資料編成](#)

3.2 ISAD(G)によるファンド記述「資生堂」 [資料3](#)

- 「資料」を主語として表現する
- 書くことのない欄は空欄が良い

4-2 資料整理の結果・・・

文書資料の情報量が飛躍的にUP！

表2 文書管理目録<抜粋> ※資生堂企業資料館作成

分類A	分類B	分類C	入力NO.	資料名	制作年	発行部門	収蔵棚No
歴史	創業・人物	福原 信三	091022026M	福原信三伝 執筆文章、自筆原稿			L15C



表3 「福原信三資料ISAD(G)記述」091022026Mの福原信三の自筆原稿部分<抜粋>(空欄の行は非表示)※清水作成

3.1.4 記述レベル	3.1.1 レファレンスコード	3.1.2 標題	3.1.3 年代	3.1.5 記述単位の大きさや媒体(量、容積、または寸法)	数量	3.2.1 作成者名	収蔵棚NO.	3.4.2 複製を規定し/裁断し/する条件	3.4.4 物理的特徴と技術的要件	3.5.4 出版についての注記	3.6.1 備考
ファイル	091022026M	福原信三伝 執筆文章、自筆原稿	1883～1972	福原信三の自筆原稿、書簡、出版物コピー、福原信三伝編集委員会資料、信三関連展覧会資料	139点						
サブファイル	091022026M-0	福原信三 自筆原稿	1883～1941	ファイル091022026M内の主に福原原稿用紙に自筆で書かれた執筆原稿 091022026M-1～50	50点	福原信三	L15C	原			
アイテム	091022026M-1	福澤全集第十巻 赤葉論	1883	福原原稿用紙(自筆)	13枚	福原信三?	L15C	原			現物未確認
アイテム	091022026M-2	福澤全集第十巻 通俗赤葉論 通俗医術論	1883	福原原稿用紙(自筆)	8枚	福原信三?	L15C	原			現物未確認
アイテム	091022026M-3	福澤全集第十巻 学者と町人	1886	福原原稿用紙(自筆)	17枚	福原信三?	L15C	原			現物未確認
アイテム	091022026M-4	福澤全集第十巻 原業分業行われ難し	1891	福原原稿用紙(自筆)	11枚	福原信三?	L15C	原			現物未確認
アイテム	091022026M-5	「銀座」の編纂について	1921	福原原稿用紙(自筆)	13枚	福原信三	L15C	原		『銀座』1921年10月	
アイテム	091022026M-6	(私は銀座で生まれましたもので)	1921	福原原稿用紙(自筆)	11枚	福原信三	L15C	原		『銀座』1921年10月	
アイテム	091022026M-7	復興したい新家庭 アパートメントとアーケード	1924	福原原稿用紙(自筆)	15枚	福原信三	L15C	原		『東京日日新聞』1924年10/16、17、27	
アイテム	091022026M-8	銀座の新装	1925	福原原稿用紙(自筆)	7枚	福原信三	L15C	原		『銀座』創刊号1925年5月	
アイテム	091022026M-9	川島理一郎君の事	1925	福原原稿用紙(自筆)	20枚	福原信三	L15C	原		『アトリエ』第2巻9号	
アイテム	091022026M-10	写真の芸術上の考察	1925	福原原稿用紙(自筆)	20枚	福原信三	L15C	原		『龍門雜誌』第427号	
アイテム	091022026M-11	写真芸術1年の回顧	1925～26	福原原稿用紙(自筆)	11枚	福原信三	L15C	原		『日本写真年鑑』大正14～15	
アイテム	091022026M-12	魂の検査	1926	福原原稿用紙(自筆)	10枚	福原信三	L15C	原		『アサヒカメラ』1926年8月号	
アイテム	091022026M-13	大自然への同化	1926	福原原稿用紙(自筆)	9枚	福原信三	L15C	原		『アサヒカメラ』1926年9月号	
アイテム	091022026M-14	自然にかえるべきか	1927	福原原稿用紙(自筆)	8枚	福原信三	L15C	原		『アサヒカメラ』1927年3/6	
アイテム	091022026M-15	印画面上の自然	1927	福原原稿用紙(自筆)	7枚	福原信三	L15C	原		『アサヒカメラ』1927年4/5	
アイテム	091022026M-16	香水 匂いと香料	1927	福原原稿用紙(自筆)	16枚	福原信三	L15C	原		『婦人』	
アイテム	091022026M-17	外国での新年の思い出	1928	福原原稿用紙(自筆)	8枚	福原信三	L15C	原			
アイテム	091022026M-18	光と其の諧謔の義解	1929	福原原稿用紙(自筆)	8枚	福原信三	L15C	原		『日本写真余 余樹』	
アイテム	091022026M-19	天裏か汗か	1929	福原原稿用紙(自筆)	9枚	福原信三	L15C	原		『アサヒカメラ』第7巻6月号	
アイテム	091022026M-20	化粧品容器の材質及び形状の最近の傾向	1929	福原原稿用紙(自筆)	11枚	福原信三	L15C	原		『東京工業』第3巻第5号	

文書資料の情報量UPが検索結果の充実にも

表4 既存の文書管理目録 歴史>創業・人物>福原信三の「香水」による検索結果・・・1件

分類A	分類B	分類C	資料名	制作年	発行部門	収蔵棚NO
歴史	創業・人物	福原 信三	130421002N 「新装」第1巻第3号 福原信三「香水の話」コピー	1935		L15C



表5 「福原信三資料ISAD(G)記述」の「香水」による検索結果(空欄の行は非表示)・・・6件

3.1.4 記述レヴェル	3.1.1 参照記号・レファレンス・コード	3.1.2 標題	3.1.3 年代	3.1.5 記述単位の大きさと媒体(量、容積、または寸法)	数量	3.2.1 作成者名	収蔵棚NO.	3.3.1 範囲と内容	3.4.2 複製を規定(統制)する条件	3.5.4 出版についての注記	3.6.1 備考
アイテム	091022026M-16	香水 匂いと香料	1927	福原原稿用紙(自筆)	16枚	福原信三	L15C		原	『御婦人手帳』	
アイテム	091022026M-28	香水雑話	1933	福原原稿用紙(自筆)	11枚	福原信三	L15C		原	『セルバン』第7号	
アイテム	091022026M-47	香水銀座	不明	福原原稿用紙(自筆)	4枚	福原信三	L15C		原	商品監査用?	
アイテム	091027051M-1	その人の顔や姿で香水も変わる 福原信三氏談	1927	記事スクラップ	1点	(福原信三)	L15C	その人の顔や姿で香水も変わる ここまで行かぬば本当ではない 段々目立つその個性化	原	『都新聞』3月1日 第14085号	
アイテム	091027051M-2	春の香水には 植物性の匂い 福原信三氏談	1927	記事スクラップ	1点	(福原信三)	L15C	春の香水には 植物性の匂い 柔らかいものがいい 東洋的になった外理の香水	原	『都新聞』3月2日 第14086号	
アイテム	130421002N	福原信三「香水の話」コピー	1935			(福原信三)	L15C		複	『新装』第1巻第3号	

社内見学にも活用

091022026M-20 「化粧品の容器の材質及び形状の最近の傾向」、091022026M-16 「香水匂いと香料」の2点を生産技術関係(社内)の見学者が閲覧。(資生堂企業資料館 中野さんより)



収集・移管、評価選別、
整理、目録作成…

「コンテキスト」必須

国内の経験・国際標準
考え方の基本は共通



専門性：ストーリー

コンテキストに基づいた情報発信スキルと能力



アーカイブズの情報発信： かつては・・・



情報発信のいま 多様なチャネル、用途



オーラル・ヒストリー

文書記録の欠落を補う (本スライド37ページも参照)

- 対象選択
- 方法
- クロスチェック
- 権利処理
- プライバシー
- 公開に関する取り決め

企業のアーカイブズ部門の業務とは？

“史資料、デジタルデータという情報を扱い、その情報を現在に活かし、未来に残すことです。

企業の内外に、企業史資料という情報を、捏造することなく、新たな価値を付け加え、編集し、企業史を提供することです。

アーカイブズ部門は企業史の伝承者です”

野秋誠治（元森永製菓、現森永エンゼル財団）

「史資料の管理」（『[企業アーカイブズの理論と実践](#)』、丸善プラネット、2013年）113～114ページ



< 前の号へ

次の号へ >

森永製菓株式会社とたばこと塩の博物館：りゅうごと天使 - 連携によるアーカイブズ展示 [前編]

森永製菓株式会社とたばこと塩の博物館：りゅうごと天使 - 連携によるアーカイブズ展示 [前編]

公益財団法人渋沢栄一記念財団 情報資源センター

2015年8月22日発行

[PDF版 \(762.0KB\)](#) / [English version](#)

<りゅうごと天使 - 連携によるアーカイブズ展示 目次>

[前編]

[はじめに](#)[1. 特別展『森永のお菓子箱 エンゼルからの贈り物』\(2011年11月3日～2012年1月9日、於・たばこと塩の博物館\)](#)

- ・たばこと塩の博物館
- ・森永製菓株式会社
- ・連携への道：目録整備・デジタル化を経て展覧会提案活動へ
- ・連携の実現：特別展『森永のお菓子箱 エンゼルからの贈り物』(2011年11月3日～2012年1月9日)
- ・連携の成果
- ・さらなる連携へ：北へ(盛岡へ)、南へ(佐賀・伊万里へ)

世界／日本のビジネス・アーカイブズ

> 組織の過去の戦略価値について

> The Shibusawa BA Project and Corporate Archives in Japan

> 企業を変える、戦略を生む：ビジネス・アーカイブズとデジタル社会

> The Shiseido Archives

> 資生堂のアーカイブズ

> 花王アーカイブズと花王ウェイ

> Ryugo and the angel

> 読澤倉庫株式会社と渋沢史料館：りゅうごと天使 [後編]

> 森永製菓株式会社とたばこと塩の博物館：りゅうごと天使 [前編]

> Bank of England Archive

リンク

https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bunken/doc005_angel.html

スライド

<https://www.ica.org/sites/default/files/SBA%20Conference%202015%20Paper%20Y.%20Matsuzaki.pdf>

同タイトル「企業アーカイブズ機能の立ち上げ事例」の別ファイルをごらんください。

企業アーカイブズ機能 の立ち上げ事例

帝国データバンク史料館
創業100周年記念社史編纂が土台に

年史編纂を契機にアーカイブズ立ち上げることが多い



目次

【1】

1. 株式会社帝国データバンク 会社概要
2. 信用調査業の略史
3. 帝国興信所の発展（1902～）
4. 積極的な事業展開
5. 第二次世界大戦前後
6. 戦後復興
7. 創業100周年記念祝賀会（2000年3月）

目次

【2】100年史制作プロジェクト（1992年～）

1. 帝国データバンク史料館 館長（2013年1月31日に松崎が聞き取り）
2. 1992年～ 社史編纂準備委員会（企画部広報課）
3. 過去に発行した社史（類似刊行物）
4. 100年史刊行準備の初期
5. 現館長の個人史と100年史刊行準備
6. 印刷会社選定前後まで
7. 100年史刊行の意思決定をめぐって
8. 書きにくい歴史について
9. 中国関係
10. 同和関係
11. 100年史の構成、編纂手順、印刷会社の提案など
12. 監修の先生との関係、経営史研究所
13. 100年史編纂からアーカイブズ、史料館へ
14. 史料館の社内での活用

労使紛争



- 1953年6月から8年間、ロックアウト断行等で会社業績低迷
- 複数の労組結成、統合、全社的労組組織結成・・・等複雑な経過をたどる
- 各種規則・規定の制定と、その適正な運用など経営の近代化に結果として結びつく

帝国データバンク創業百周年記念プロジェクト
百年史編纂室編『情報の世紀：帝国データバンク
創業百年史』東京：帝国データバンク：2000

人事調査



- 明治末年ごろまでには出現
- 1960年代～70年代にかけて人権意識高まる
- 1931年6月には水平社による糾弾会→社内通達
- 1960年身元調査に関わり女性自殺
- 1979年結婚調査に関わり事情聴取
- 1981年12月、人事・雇用調査廃止

参考：社史について調べたい時のための情報源

渋沢社史データベース

<https://shashi.shibusawa.or.jp/>

同サイト 社史(出版物)を実際に見るには

<https://shashi.shibusawa.or.jp/publication/index.php>

神奈川県立川崎図書館

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/>

同サイト 社史・技報・講演論文集検索

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/search/cole.htm>

国立国会図書館提供「カレントアウェアネス」No.317掲載

熊谷尚子『CA1803-動向レビュー：社史の世界』

<http://current.ndl.go.jp/ca1803>

国立国会図書館 リサーチナビ>調べ案内>経済・産業>会社情報の調べ方
>社史・経済団体

http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/entry/theme-honbun-102077.php



専門性：ルール

資料管理ポリシー作成、利用に関する権利処理



ルール



ポリシー

- 何を集めるか、何を残すか
(評価選別)
 - どのように提供する
か
(利用、公開)
-



権利問題

- 複製と再利用にかかわる
各種権利問題
 - 個人情報、プライバシー

(事例) 社内報遡及的デジタル化～
デジタル索引化までは可
本文には著作権や個人情報
-

企業アーカイブズにおけるルール

- ポリシー 文書管理規則に関しては総務部門との連携
- 権利問題 法務部との連携

【参考】 (日本の) 収集アーカイブズ (MLA機関) は対外的な権利問題が深刻
企業と異なり法務部門が存在しないことが多い

([2017.5.12.のデジタルアーカイブサロンでのファミリーサーチの方のご指摘](#))

BAの専門性まとめ

(日本では) 社内で継続的に調達確保できない専門性を企業間の横の連携や外部のエキスパートによって補う



松崎裕子

「企業アーカイブズを持続可能なものとする：
日本的経営におけるアーキビストとは？」

『アーカイブズ学研究』21号（2014年11月）参照



BAが必要とする専門性の今後の可能性

- 社内異動でアーカイブズ担当となったスタッフを中心に、「プロジェクトベースで外部と連携しながら実績を積み重ねる『泥縄戦略』によってアーカイブズに対する理解増進を図る」（大手食品メーカー博物館関係者）※年表の1960年代を参照（[経営史学会](#)と[経営史研究所](#)の関係）
- 専門職スタッフの雇用または現職スタッフに対する専門教育・訓練による専門職化
- 大学がアーキビスト育成の目的で修了生や大学院生を使い、「アーカイブズ構築のビジネスモデル」を自ら立ち上げているという事例（[韓国・明知大学校の事例](#)）



原則を理解するための
基本テキストのひとつ

『レコード・マネジメント・ハンドブック： 記録管理・アーカイブズ管理のための』

(著者)

エリザベス・シェパード, ジェフリー・ヨー

(編訳者)

森本祥子, 平野泉, 松崎裕子

(訳者)

清原和之, 齋藤柳子, 坂口貴弘,
清水善仁, 白川栄美, 渡辺悦子

日外アソシエーツ、2016年





トヨタ自動車アーカイブズグループ

Toyota Archives, Toyota Motor Corporation



世界/日本のビジネス・アーカイブズ

一覧へ

< 前の号へ

次の号へ >

トヨタ自動車株式会社の社史編纂の歴史とアーカイブズ

トヨタ自動車株式会社の社史編纂の歴史とアーカイブズ

公益財団法人渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センター

2014年9月3日発行

[\[PDF版 \(362.9KB\)\]](#)

<目次>

- ・トヨタ自動車株式会社：会社概要
- ・トヨタ自動車における社史：1987年の創業50年史まで
- ・トヨタ自動車における歴史遺産の管理と活用：ミュージアムの開設
- ・50年史から75年史へ：社内史料グループの形成と社内史料整備
- ・国内経済状況の概観、グローバル化とアーカイブズ、社史
- ・トヨタウェイ
- ・75年史のコンセプトと革新
- ・アーカイブズ管理
- ・おわりに
- ・注

世界/日本のビジネス・アーカイブズ

- > 組織の過去の戦略価値について
- > The Shibusawa BA Project and Corporate Archives in Japan
- > 企業を変える、戦略を生む：ビジネス・アーカイブズとデジタル社会
- > The Shiseido Archives
- > 養生室のアーカイブズ
- > 花王アーカイブズと花王ウェイ
- > Ryugo and the angel
- > 滋養倉庫株式会社と渋沢史料館：りゅうごと天使 [後編]
- > 森永製菓株式会社とたばこと塩の博物館：りゅうごと天使 [前編]

https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bunken/doc002_toyota.html

トヨタ自動車の75年

1937 トヨタ自動車工業設立

1950 経営危機に陥る、トヨタ自動車販売設立

1982 トヨタ自動車工業とトヨタ自動車販売が合併してトヨタ自動車に

1987 創業50周年

2012 創業75周年

トヨタ自動車の社史

- トヨタ自動車工業社史

1958年 20年史

1967年 30年史

1978年 40年史

- トヨタ自動車販売社史

1970年

1980年

- トヨタ自動車社史

1987年 50年史



『創造限りなく：トヨタ自動車50年史』

(1987年)

本篇 1030頁
資料篇 321頁

トヨタ自動車
の「正史」の
位置付け

約70,000部
発行

デジタル化され
て2003年に社内
LANに搭載



英語版 *Toyota: A History of the First 50 Years* を1988年に刊行

(出典) https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bunken/doc002_toyota.html

トヨタ自動車のアーカイブズ (社内史料グループ)の歴史

1993 創業期の史料を包括的に収集・整備
する社内史料グループの前身、
トヨタ博物館内に発足

1997 社内史料グループ発足

2006 次期の社史編纂・刊行を副社長会に
提案、75年史編纂プロジェクト開始

2012 創業75周年

(出典) https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bunken/doc002_toyota.html

参考ページ

トヨタ自動車75年史サイト

<https://www.toyota.co.jp/jpn/company/history/75years/data/index.html>

トヨタ・カローラ50周年サイト

Galleryページからアーカイブズの画像をダウンロード可
(例)

カローラ1号車ラインオフ式 (1966年)

<http://newsroom.toyota.co.jp/jp/download/14041969>



Walgreens Boots Alliance Archives

ウォルグリーン・ブーツ・アライアンス・アーカイブズ





[https://commons.wikimedia.org/wiki/File%3ABoots_the_Chemist%2C_Coney_Street%2C_York_\(12th_June_2013\).JPG](https://commons.wikimedia.org/wiki/File%3ABoots_the_Chemist%2C_Coney_Street%2C_York_(12th_June_2013).JPG)

By Mtaylor848 (Own work) [CC BY-SA 3.0 (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>)], via Wikimedia Commons

Walgreens Boots Alliance Archives

1849年創業の英国の薬品・化粧品・ヘルス関係の製造・小売業ブーツ・ブランド

ウェルカム財団の助成を得てオンライン公開した

ウォルグリーン・ブーツ・アライアンス・アーカイブズのサイト

<http://archives.walgreensbootsalliance.com/>

画像ギャラリー

<http://archives.walgreensbootsalliance.com/imagegallery.aspx>

会社組織の部署・機能に対応した階層ブラウザ

<http://archives.walgreensbootsalliance.com/TreeBrowse.aspx?src=CalmView.Catalog&field=RefNo&key=WBA%2fBT%2f21%2f46%2f1%2f377%2f12>

詳細検索画面

<http://archives.walgreensbootsalliance.com/advanced.aspx?src=CalmView.Catalog>

アイテムレベルのページ（画像と詳しい説明←コンテキスト。分類上の位置も上部で確認可）

<http://archives.walgreensbootsalliance.com/record.aspx?src=CalmView.Catalog&id=WBA/BT/21/46/1/377/12>



その他参考

「アーカイブズを展示することによる商業上の効果」

ケイティ・ローガン、シャーロット・マッカーシー
(ブーツ社、イギリス)

訳：渡邊美喜、東京国立近代美術館

『世界のビジネス・アーカイブズ：企業価値の源泉』所収
(71～90ページ)

ISBN: 978-4-8169-2353-1

編集：公益財団法人 渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター

発行：日外アソシエーツ株式会社

発売元：株式会社紀伊國屋書店

奥付の発行日：2012年3月26日



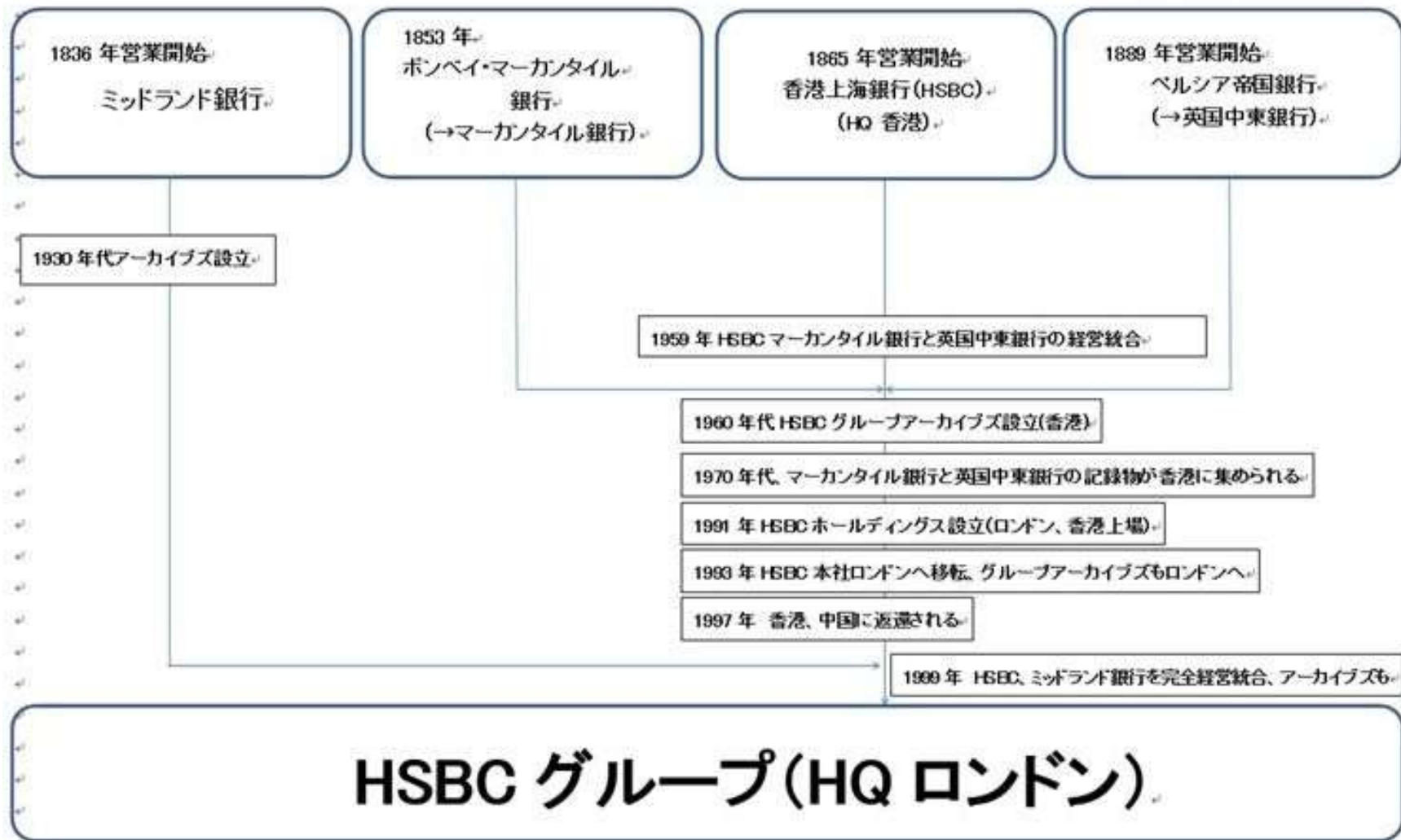
<http://d.hatena.ne.jp/tobira/20120215/1329283710>



HSBC Global Archives

HSBC グローバル・アーカイブズ





HSBCグローバル・アーカイブズのデジタル化

1865年創業の香港上海銀行を基に発展した金融グループ

同社グローバル・アーカイブズのページ

<http://www.hsbc.com/about-hsbc/company-history/hsbc-archives>

同社グローバル・アーカイブズ部長ティナ・ステープルズによる記録の作成からアーカイブでの保存までの一貫システム立ち上げに関するプレゼンテーション・スライド

<https://www.ica.org/sites/default/files/SBA%20Conference%202015%20Paper%20T.%20Staples.pdf>

関連スライド

https://www.businessarchivescouncil.org.uk/materials/03_claire_twinn_and_james_mortlock.pdf/

情報資源センター「ビジネス・アーカイブズ通信」関連号

<https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20170214.html>

<https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20161115.html>

<https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20160816.html>

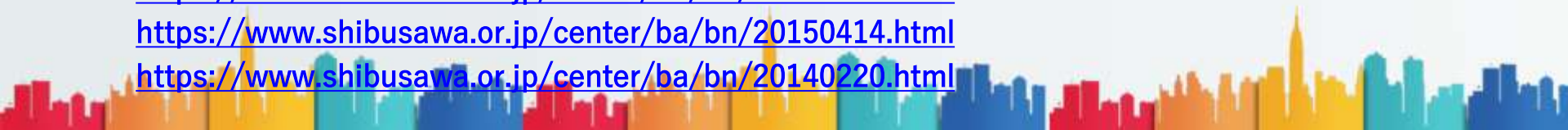
<https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20160204.html>

<https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20151121.html>

<https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20150919.html>

<https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20150414.html>

<https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20140220.html>





BT Archives & The BT Digital Archives

BT アーカイブズ & BT デジタル・アーカイブズ



大規模デジタル化と公開 BTアーカイブズ

前身会社は1846年に設立。英国大手テレコミュニケーション会社のアーカイブズ

BTアーカイブズのページ

<http://www.btplc.com/thegroup/btshistory/btgrouparchives/>

英国国立公文書館、コヴェントリ大学との共同デジタル化プロジェクト（2011年11月～2013年7月）
によるBTデジタル・アーカイブズ

（JISC=英国情報システム合同委員会出資）

<http://www.digitalarchives.bt.com/Calmview/>

写真・絵画等45,000点（1865年頃～1982年）
調査報告書13,500以上190,000ページ（1878年～1981年）
政策・業務ファイル550以上230,000文書（1851年～1983年）

BTデジタル・アーカイブズ・システム 階層目録ページ

<http://www.digitalarchives.bt.com/CalmView/TreeBrowse.aspx?src=CalmView.Catalog&field=RefNo&key=BTA%2f8+HIC%2f014%2f507%2f002>

BTデジタル・アーカイブズ・システム 詳細検索画面

<http://www.digitalarchives.bt.com/CalmView/Advanced.aspx?src=CalmView.Catalog>



参考

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

☆

☆☆ □■□ ビジネス・アーカイブズ通信 □■□

☆☆

☆☆ No. 17 (2009年4月17日発行)

☆☆

☆☆ 発行：財団法人渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センター

☆☆

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

この通信では海外（主として英語圏）のビジネス・アーカイブズに関する情報をお届けします。

今号は文献情報4件です。

◆ 目次 ◆

[掲載事項の凡例]

[お願い]

■文献情報：ビジネス・アーカイブズ ウェブサイト 6

□英国BTアーカイブズ

■文献情報：アーカイブズと倫理 4

□米国アーキビスト協会（SAA）会長コメント「倫理を強制すること」

■文献情報：アーカイブズ政策 2

□米国国立公文書館（NARA）大統領記録へのアクセスに関する意見募集

ビジネス・アーカイブズ通信（BA通信）

> バックナンバー

> ご利用案内

> 配信申込

> 解約申込

☆☆

☆

☆ □■□ ビジネス・アーカイブズ通信 □■□

☆

☆ No. 18 (2009年5月7日発行)

☆

☆ 発行：財団法人渋沢栄一記念財団 実業史研究情報センター

☆

☆☆

この通信では海外（主として英語圏）のビジネス・アーカイブズに関する情報をお届けします。

今号は文献情報1件、行事情報1件です。

◆ 目次 ◆

[掲載事項の凡例]

[お願い]

- 文献情報：ビジネス・アーカイブズ ウェブサイト 7
 - 英国BTアーカイブズ（続き）

- 行事情報：カナダ・アーキビスト協会(ACA)年次大会 5月14-17日 カルガリ
 - 大会テーマ「権利、責任、信頼：アーカイブズと公的なことから」

[略称一覧]

☆☆ 編集部より；次号予告 ☆☆

ビジネス・アーカイブズ通信 (BA通信)
> バックナンバー
> ご利用案内
> 配信申込
> 解約申込



IBM Archives

アイビーエム・アーカイブズ




— 1911年 トーマス・J・ワトソン・シニアが創業



IBM [CC BY-SA 3.0 (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0>) or GFDL (<http://www.gnu.org/copyleft/fdl.html>)], via Wikimedia Commons

— 1993年 49億7,000万ドルの赤字
全社的に大リストラ

— 1998年 専門アーキビスト雇用

- 
- 2002年 経営陣交代
ブランドチームに協力
企業ブランド4つの特性発見
 - 2005年 100周年企画の積極的提案
 - 2008年 「スマーター・プラネット」 貢献
 - 2011年 100周年企画

100周年記念サイト (アーカイブズ部門が戦略的役割を果たす)

<http://www-03.ibm.com/ibm/history/ibm100/us/en/> (英語)

<http://www-03.ibm.com/ibm/history/ibm100/jp/ja/> (日本語)

▶ Entire E-book:



*Leveraging Corporate Assets:
New Global Directions for Business Archives*

High-resolution version:

[PDF 5,546KB]

Low-resolution version:

[PDF 2,298KB]

▶ Individual Chapters:



Introduction

Didier Bondue (Saint-Gobain Archives) &
Yuko Matsuzaki (Shibusawa Eiichi Memorial Foundation)

[PDF 168KB]

Part I: The Power of History Marketing

-  1. A Broader Perspective: Supporting Today's Communication with Historical Facts
Henning Morgen (A.P. Moller – Maersk) [PDF 302KB]
-  2. Japanese Traditional Industries and Archives: The Case of Toraya Confectionery
Naomi Aoki (Toraya) [PDF 279KB]
-  3. Rooted in the Archives: The Contribution of Corporate Heritage to the IBM Brand Experience
Paul Lasewicz (IBM) [PDF 190KB]



http://www.shibusawa.or.jp/english/center/network/01_icasbi/Tokyo/leveraging.html

<http://d.hatena.ne.jp/tobira/20120215/1329283710>



The Archives, Levi Strauss & Co.

リーバイス・アーカイブズ



リーバイス・アーカイブズ

1853年に創業した150年以上の歴史を持つ老舗ジーンズ・メーカーのアーカイブズ

アーカイブズによる年表、アーカイブズ利用方法など

<http://www.levistrauss.com/our-story/>

ブログページ。heritageのタグ付けされたもの。過去の製品などアーカイブズが利用されています。

<http://www.levistrauss.com/unzipped-blog/tag/heritage/>

SNSその他多様な利用を可能にした2014年のデジタル化DAMプロジェクトについて

<https://www.ica.org/sites/default/files/SBA%20Conference%202015%20Paper%20T.%20P%20anek.pdf>

(2015年6月にミラノで開催されたICASBAカンファレンスでのプレゼンテーション)





Coca-Cola Archives

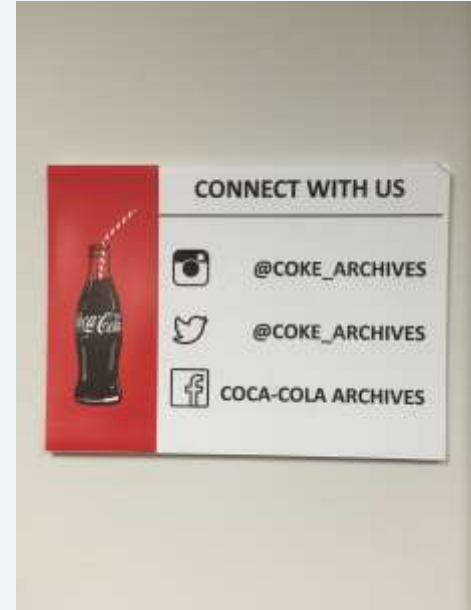
コカ・コーラ・アーカイブズ



コカ・コーラ・アーカイブズ

- 同社サイト内ヘリテージ部門のページ～ストーリー、イメージが豊富
- ブログ、Facebook、Twitter、Instagram・・・各種SNSにデジタルなイメージとそれにまつわるヘリテージ（遺産）ストーリーを投稿
- コーポレート・コミュニケーションに欠かせない
- コンペティターの商品との差別化・ブランディング

<http://www.coca-colacompany.com/topics/heritage>



米国アトランタの
同アーカイブズ内掲示

参考

=====
■文献情報：ビジネス・アーカイブズ・ウェブサイト 12
=====

○コカ・コーラ社アーカイブズ・ブログ「コカ・コーラ・カンパセーションズ（コカ・コーラの会話）」

Coca-Cola Conversations

<http://www.coca-colaconversations.com/> 

今回ご紹介するのはコカ・コーラ社のブログサイト「コカ・コーラ・カンパセーションズ」です。

<http://www.coca-colaconversations.com/> 

このサイトはコカ・コーラ社の社内で正式に認められたブログです。コンテンツの作成を担当しているのは同社アーカイブズ部門。ブログの右肩に「このブログについて（About this blog）」というテキストが掲載されています。著者は同社アーカイブズに30年以上勤務するアーキビスト兼歴史家のフィル・ムーニー（Phil Mooney）です。ムーニー氏にはビジネス・アーカイブズに関する論考も多数あり、本通信でこれまで取り上げてきた文献のなかに収められています。

◆コカ・コーラ社アーキビストのフィル・ムーニー氏著作◆

『企業国家アメリカの実践：アメリカにおける企業アーカイブズ』

『企業アーカイブズと歴史：過去を活かす』（1993年）所収

<http://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20081020.html>

『アーカイブズの神話学と企業の現実：危険をはらんだひとつの場所』

『アメリカ企業の記録』（1997年）所収

<http://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20081112.html>

ムーニー氏はこのブログを立ち上げるまでの道のりをまとめた文章を、「インタラクティブ・アーキビス

ビジネス・アーカイブズ通信（BA通信）

> バックナンバー

> ご利用案内

> 配信申込

> 解約申込

<https://www.shibusawa.or.jp/center/ba/bn/20100412.html> 2010年の記事です。



海外のデジタル企業アーカイブズ (組織アーカイブズが行うデジタル化) 事例比較



- 米国企業リーバイスのICASBAカンファレンス（2015年6月、イタリア・ミラノ）でのアーカイブズのデジタル化とDAM導入事例
 - <https://www.ica.org/sites/default/files/SBA%20Conference%202015%20Paper%20T.%20Panek.pdf>
- イギリス系のBTやブーツ（ウォルマート・ブーツ・アライアンス）公的助成金を得て資料のアナログからデジタルへ変換、インターネットでの「デジタルアーカイブ（ズ）」の公開
 - <http://www.digitalarchives.bt.com/Calmview/>
 - <http://archives.walgreensbootsalliance.com/>



イギリス系企業アーカイブズのデジタル化とインターネット公開の特徴

- 資料の整理・目録（編成・記述）は、ISAD（G）に依拠
- 公開されているウェブサイトも階層性が可視化されている
- 資料に関するディスクリプションが豊富（50年後の人がそれを見てもコンテキストがわかる）

（理由として考えられること）

イギリスのアーカイブズには官民間わずISAD（G）が行き渡っているという歴史的背景
プロプライエタリなアーカイブの資料管理システム（例えばCALM）が普及していること





海外のビジネス・アーカイブズ協会・団体



各国ビジネス・アーカイブズ関係協会・団体

アメリカ・アーキビスト協会 ビジネス・アーカイブズ部会

ビジネス・アーカイブズ・カウンシル (英国)

スコットランド・ビジネス・アーカイブズ・カウンシル

(スコットランド)

ドイツ・ビジネス・アーキビスト協会

香港档案協会

韓国記録専門家協会 (公共分野のアーキビスト、レコード・マネージャーが多数)





国立公文書館 デジタルアーカイブ



当館について

ご利用案内

所蔵資料

展示会情報

刊行物

ホーム > 国立公文書館について > 国立公文書館概要

国立公文書館概要

独立行政法人国立公文書館は、国の行政機関などから移管を受けた歴史資料として重要な公文書等を保存管理しています。当館は、その保存実務から一般利用まで広く事業を行うことにより、歴史資料として重要な公文書等の適切な保存と利用を図ることを目的とした施設です。



国立公文書館

▶ アクセス方法



つくば分館

▶ 詳しくはこちら
▶ アクセス方法

業務概要

<http://www.archives.go.jp/about/outline/>

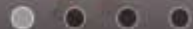


桜町殿行幸図

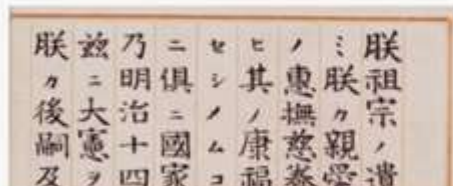
さくらまちでんぎょうこうず

資料を探す・利用する

検索



主な資料を見る



① ご利用案内

- > [初めての方へ](#)
- > [ご利用方法](#)

<https://www.digital.archives.go.jp/>



国立公文書館 アジア歴史資料センター



資料の検索・閲覧

さまざまなコンテンツ

アジア歴史資料センターとは



国立公文書館
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records National Archives of Japan

English

中文

한국어

アジア歴公開資料を検索します



文字サイズ

標準

大

● データベース内検索

○ サイト内検索

アジア歴はインターネット上の資料館（デジタルアーカイブ）です。

国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所から、デジタル化されたアジア歴史資料（近現代における日本とアジア近隣諸国等との関係に関わる日本の歴史的な文書）の提供を受け、データベースを構築してインターネットを通じて公開しています。

自由に!
タイムトラベル
いつでも どこでも
だれでも 無料で

<https://www.jacar.go.jp/index.html>



アジア歴史資料センターを検索します



文字サイズ

標準

大

データベース内検索

サイト内検索

サイトマップ

資料の検索・閲覧

- » キーワード検索
- » 五十音検索
- » キーワード詳細検索
- » レファレンスコード検索
- » 他機関との横断検索
- » アジ歴グロッサリー
- » 凡例
- » 資料画像の利用について
- » 検索ガイド
- » 閲覧ガイド

さまざまなコンテンツ

- » インターネット特別展・特集
- » アジ歴トピックス
- » 社会科授業用資料リスト

アジア歴史センターとは

- » センター長ご挨拶
- » センターの概要と特徴
- » センター公開資料の概要
- » 資料の公開状況
- » アジ歴紹介MOVIE
- » アジ歴ニュースレター
- » アジ歴サポーター
- » 国内所在資料調査報告書

お問い合わせ

リンク集

サイトマップ

このウェブサイトのご利用にあたって

▶ 国立公文書館

資料の検索・閲覧

さまざまなコンテンツ

アジア歴史資料センターとは

▶ 外務省外交史料館

① キーワード検索

① アジ歴グロッサリー

① アジ歴トピックス

① センター長ご挨拶

② 五十音検索

② 凡例

② 社会科授業用資料リスト

② センターの概要と特徴

▶ 防衛省防衛研究所

③ キーワード詳細検索

③ 資料画像の利用について

③ インターネット特別展・特集

③ センター公開資料の概要

<https://www.jacar.go.jp/sitemap.html>

国立公文書館

- [内閣](#) >
- [逓信文書](#) >
- [内務省](#) >
- [郵政省](#) >
- [法務省](#) >
- [財務省](#) >
- [国土交通省](#) >
- [防衛省](#) >
- [商工省](#) >
- [内閣文庫](#) >

資料群階層を閉じる

資料閲覧

[詳細情報の表示](#) > [印刷用ページ](#)

標題	国立公文書館
解説	国立公文書館は、内閣総理大臣が国の機関から移管を受けた歴史資料として重要な公文書等の適切な保存及び利用を図ることを目的とし、昭和46年（1971）に当時の総理府・・・ 続きを見る

キーワードを指定して検索

この階層以下すべてを対象・

> 絞り込み検索

<https://www.jacar.archives.go.jp/aj/meta/MetSearch.cgi>



NARA

米国国立公文書館 & 記録管理庁



RESEARCH OUR RECORDS

Explore our nation's history through our documents, photos, and records.

VETERANS' SERVICE RECORDS

Request military records and learn about other services for yourself or a family member.

EDUCATOR RESOURCES

Find primary sources, tools for teaching with documents, and student and educator programs.

VISIT US

Plan a trip to the Museum, to one of the Presidential Libraries, or to conduct research.

AMERICA'S FOUNDING DOCUMENTS

The Declaration of Independence, the Constitution, and the Bill of Rights.



<https://www.archives.gov/veterans>

Archives News

Solar Eclipses: Past and Present

Cast and Crew of the Kennedy Center's "The King and I" Visit the National Archives

National Archives Begins Online Release of JFK Assassination

<https://www.archives.gov/>

Information For...

[Citizen Archivists](#)
[Federal Employees](#)
[Genealogists](#)
[Members of Congress](#)
[Preservation](#)
[Records Managers](#)
[The Press](#)

Resources

[A-Z Index](#)
[America's Founding Docs](#)
[Contact Us](#)
[En Español](#)
[FAQs](#)
[Forms](#)

Publications

[Federal Register](#)
[Prologue Magazine](#)
[Purchase Publications](#)
[Subscribe to Email Newsletters](#)
[More...](#)

Shop Online

[Visit the National Archives Store](#)
[Order National Archives Prints](#)
[Buy Reproductions and Microfilm](#)
[Order Still Picture Reproductions](#)

Orgs. & Offices

[Center for Legislative Archives](#)
[Federal Records Center](#)
[Office of the Inspector General](#)
[Presidential Libraries](#)
[More...](#)

About Us

[What is the National Archives?](#)
[Doing Business with Us](#)
[Plans and Reports](#)
[Open Government](#)
[Our Plain Language Activities](#)

I Want To...

[Get My Military Record](#)
[Plan a Research Visit](#)
[Visit the Museum](#)
[View Online Exhibits](#)
[Apply for a Grant](#)

Participate

[Attend an Event](#)
[Donate to the Archives](#)
[Work at the Archives](#)
[Volunteer at the Archives](#)

CONNECT WITH US



[Contact Us](#) · [Accessibility](#) · [Privacy Policy](#) · [Freedom of Information Act](#) · [No FEAR Act](#) · [USA.gov](#)

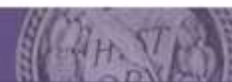
The U.S. National Archives and Records Administration
1-86-NARA-NARA or 1-866-272-6272



<https://www.archives.gov/>



Citizen Archivist Dashboard



[Home](#) > [Citizen Archivist](#)

Citizen Archivist

- [Register and Get Started](#)
- [Citizen Archivist Missions](#)
- [National Archives Catalog](#)
- [FAQs](#)
- [History Hub](#)



One day all of our records will be online. You can help make it happen.

You can become a citizen archivist — just click one of the options below to get started.

<https://www.archives.gov/citizen-archivist>

Citizen Archivist Dashboard

Home > Citizen Archivist



Citizen Archivist

- Register and Get Started
- Citizen Archivist Missions
- National Archives Catalog
- FAQs
- History Hub



You Can Transcribe It!
Help us improve the accessibility
of historical documents.

<https://www.archives.gov/citizen-archivist>

まとめ

1. 組織アーカイブズとしての企業アーカイブズは100年後にもコンテンツを理解可能なものとするために、コンテキストが失われないようにアーカイブ化を行う。そのような専門性を持つ必要がある。
2. 何をアーカイブの対象とするかは「後世の人びとに会社の姿をより正確に伝え、理解してもらう」ことを基準にする。
3. 国内外の事例によれば、企業アーカイブズはデジタル化によって、より多様な利活用が可能となるとともに、紙の時代とは異なるアーカイブの方法に関わる課題を持つ。



海外のアーカイブ デジタルアーカイブ ビジネスアーカイブ

ご清聴ありがとうございました

